

# 幼稚園ゲーム

土川 五郎

## すわたり立つたり

一組の子供は各々の椅子に半圓を描いて坐す。

子供は眞直に坐り兩手を組み足揃へる。

立つべき合圖にて一齊に立つ、少しの足音もなく、兩手も少しも動かすことなく、何等の混雜もなく静肅に、しかも迅速に立つ。次に坐るべき合圖によつて又正確に靜かに坐わる、かくの如くして連續四五回に及ぶ又別法として兩手を背後にて組み兩脇を兩手にて受け坐立をなす、この仕方は多少困難の伴ふものにして筋肉の統制を確實を要求する。

目的、筋肉の統制、注意、訓練。

## 輪通し

直徑四尺の青と赤と半々に塗つた籐の輪、赤及青の立囊各三つ。

相對したる二人の子供に床上三尺位の所に輪を縦

に掲げしめ、他の多くの子供を十二フット離れて輪の一方に集合せしむ、教師は其反對の側に立つ。教師は豆囊を其輪を通して集つて居る子供の方に投げる、一度に一つ宛、(六回續いて)子供等は敏捷に其豆囊を受け教師全く投げ終りて、更に子供はそれを教師に投げ返す、かくして數回繰返す。この遊戯によつて弱きもの、最足らざる子供は特別な注意を與へらる、注意せざる子供は何時も強者に厭せられ何の得る所もなきに至る故である。

目的、遊戯精神の發達、手と目の練習、注意。

## 椅子取り

一列に六つの椅子を列べ、八フット離れて一線を描き七人の子供を立たしむ。

合圖により子供は駆けて其椅子に坐す、後れて椅子を得られぬ一人の子供は列外に。

更に椅子一脚を減じて前の如く繰返す、一つの椅

子と二人の子供が残るまで続ける、然る後最後の  
勝敗を定む。

目的、筋肉の統制、注意

### 目かくし

子供は手をつなぎ大なる圓を作る、六人の子供を  
擇み圓内に入れ、一人の子供は目をかくし中心に  
立つ残りの五人は輪を作る、短き歌によつて目か  
くしされた子供の外皆左にまわり歌の終ると共に  
止まる、中の目くらは五人の内の一人を捕へる、  
捕へられたものは目をかくし中に立ち、残りの五  
人は外列に歸り、他の五人が擇まれて中の輪を作  
りかくして繰返す。

別法 歌止みて外圓のものは其まゝ内方に向いて  
止まり中圓の五人は離れ／＼となつて捕へられざ  
る様に足音なく圓内を逃げまわる。

目的 遊戯精神の發達。

さまたげられるからよくない。反對に高過ぎたら座面が浮き腰にな  
つて脊柱は右または左に彎曲する。殊に日本の机においてほうしる  
にもたれがないから身體の動搖が甚だしい。腰掛けが高い時は足が  
地に接しない爲大腿のうしろが「シビレ」を起したり、低過ぎると腹  
部の臓器が壓迫されて消化の障礙を示すものである。それから腰掛  
に付いてゐるもたれは必ず必要である。その爲め兒童の姿勢がみだ  
れずにするのである。また机の面は外國では必ず斜面となつてゐる  
が日本字を書くには却つて肘下りとなつて姿勢を悪くするからいけ  
ないとしてゐる。さて以上のやうに机にもまた腰掛けにも不備な  
點があつてはいけぬが、いかに適當な机でもこれによりかゝつたり  
などしてはいけぬ。即ち姿勢の訓練が行き届かぬと何にもならぬ。  
腰を掛けた時上體は自然の直立をしてその重心が兩座骨結曲の中間  
に落ちる位置をとり、兩脚は自然に開き、兩下腿は垂直にし、兩足  
は平に床面を踏んで、兩手は股の上に置き、目ば前の方を正確に正  
視するのがよい姿勢である。その缺點を見出すのにはそれらの兒童  
の四方から觀察すれば一番よく分るのである。

—「日本兒童協會時方」より—